

神樂坂七不思議

泉鏡花

青空文庫

世よの中なかなに何事ことも不思議ふしぎなり、「おい、ちよいと煙草屋たばこやの娘むすめはアノ眼色めつきが不思議ふしぎぢやあ
ないか。」と謂いふは別に眼めが三ツあるといふ意味いみにあらず、「春狐子しゅんこし、何うでござ
彼處あそこの會くわい席せきは不思議ふしぎに食くせやすぜ。」と謂いふも譽ほめ様やうを捻ひねるのなり。人ひとありて、
もし「イヤ不思議ふしぎと勝かつね、日本にっぽんは不思議ふしぎだよ、何うも。」と語かたらむか、「此奴こいつが
失敬しつげいなことをいふ、陛下へいかの稜威みいづ、軍士ぐんしの忠勇ちゆうゆう、勝かつなアお前めえあたりまへだ、何も
不思議ふしぎなことあねえ。」とムキになるのは大きおほに野暮やぼ、號外がうぐわいを見てぴしやくと
額ひたひたを叩たたき、「不思議ふしぎだ不思議ふしぎだ」といったとて勝かつたが不思議ふしぎであてにはならぬとい
ふにはあらず、こゝの道理だうりを噛かみ分わけてき、この七不思議ななふしぎを讀よみ給たまへや。
東西とうざい、最初さいしよお聞きに達たつしまするは、

「しゝ寺でらのもゝんぢい。」

これ大弓場だいきやうばの爺様ぢいさんなり。人ひとに逢あへば顔相がんさうをくづし、一種特有いっしゆとくいうの聲こゑを發はつして、
「えひゝゝ。」と愛想笑あいさわらひをなす、其顔そのかほを見ては泣出なきださぬ嬰兒こどもを――、「あいつあ不
思議しぎだよ。」とお花主とくいは可愛かはいがる。

次が、

「勸工場の逆戻。」

東京の區到る處にいづれも一二の勸工場あり、皆入口と出口を異にす、獨り牛込の勸工場は出口と入口と同一なり、「だから不思議さ。」と聞いて見れば詰らぬこと。

それから、

「藪蕎麥の青天井。」

下谷團子坂の outlet なり。夏は屋根の上に柱を建て、席を敷きて客を招ず。時々立ち蕎麥を攫はる、とおまけを謂はねば不思議にならず。

「奥行なしの牛肉店。」

(いろは) のことなり、唯見れば大廈鬼然として聳ゆれども奥行は少しもなく、座敷は残らず三角形をなす、蓋し幾何學的の不思議ならむ。

「島金の辻行燈。」

家は小路へ引込んで、通りの角に「蒲焼」と書いた行燈ばかりあり。氣の疾い奴がむやみと飛込むと仕立屋なりしぞ不思議なる。

「菓子屋の鹽餡娘。」

餅菓子店もちぐわしやの店みせにツンと濟すましてる婦人をんななり。生娘きむすめの袖誰そでだれが曳ひいてか雉子きじの聲こゑで、ケンもほろゝの無愛嬌者ぶあいけうもの、其癖そのくせ甘いから不思議ふしぎだとさ。

さてどんじりが、

「繪草紙屋ゑぐさうしやの四十島田しじふしまだ。」

をんなあるじ

女主人をんなあるじにてなか／＼の曲者くせものなり、「小僧こそうや、紅葉もみぢさんの御家ごけへ參つて……」などと

いちめんしき

一面識いちめんしきもない大家たいかの名なを聞きこえよがしにひやかしおどかさ奴やつ、氣きが知しれないから不思議ふしぎなり。

明治二十八年三月

青空文庫情報

底本：「鏡花全集 卷二十七」岩波書店

1942（昭和17）年10月20日第1刷発行

1988（昭和63）年11月2日第3刷発行

※題名の下にあった年代の注を、最後に移しました。

入力：門田裕志

校正：米田進

2002年4月24日作成

2003年5月11日修正

青空文庫作成ファイル：

このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（<http://www.aozora.gr.jp/>）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

神樂坂七不思議

泉鏡花

2020年 7月17日 初版

奥 付

発行 青空文庫

URL <http://www.aozora.gr.jp/>

E-Mail info@aozora.gr.jp

作成 青空ヘルパー 赤鬼@BFSU

URL <http://aozora.xisang.top/>

BiliBili <https://space.bilibili.com/10060483>

Special Thanks

青空文庫 威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー <http://aohelp.club/>
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
<http://tokimi.sylphid.jp/>